

平成 29 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	大阪府大規模災害リハビリテーション支援研究会
活動テーマ	被災地でリハビリテーション支援活動を行うための人材育成と組織作り



東日本大震災や熊本地震の経験が風化する前に、その教訓を生かすべく災害時のリハビリテーション支援活動のあり方を整理し、また災害リハビリテーション支援活動の経験者から次世代へ伝達することにより、巨大震災にリハビリテーション専門職として対応することができる人材育成を組織づくりに取り組むことを目的として、様々な研修会を企画し、開催した。

まず座学形式の研修としては、「発災直後の本部活動」、「海外の人道支援活動から学ぶこと」、「災害医療の基礎知識」、「被災した頸髄損傷の支援活動」、「阪神淡路大震災」、「在宅避難者の支援と災害時の福祉用具」をテーマで、講義（写真左上）やシンポジウムを開催した（写真右上）。

また、机上シミュレーション型の研修としては、熊本県理学療法士協会が開発した「REHUG（大規模災害リハビリテーション支援チーム本部運営ゲーム）」を使い、被災後の受援体制を円滑にするための本部活動のスキルを身に付けることを目的とした演習を行った（写真左下）。そして、実動訓練としては、大阪府の大規模地震時医療活動訓練に JRAT のメンバーとして参加し、「大阪府庁での本部活動」、「大阪市住吉区役所での本部活動」、「避難所の立ち上げ・運営」を体験した（写真右下）。

さまざまな研修会を開催することで理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など、リハビリテーション専門職が自らの専門分野を生かして災害時に多くの支援活動ができることが確認できた。実働訓練においては、座学や机上シミュレーションではわからない現場の活動を肌で感じる事ができ、それ以降の研修にもよい影響が生まれた。阪神淡路大震災と東日本大震災については、その経験者を招聘し、これらの震災が風化せず次世代につなげるような取り組みも行った。受講者からは、大変好評を得て、新聞・テレビでも取り上げられた。